

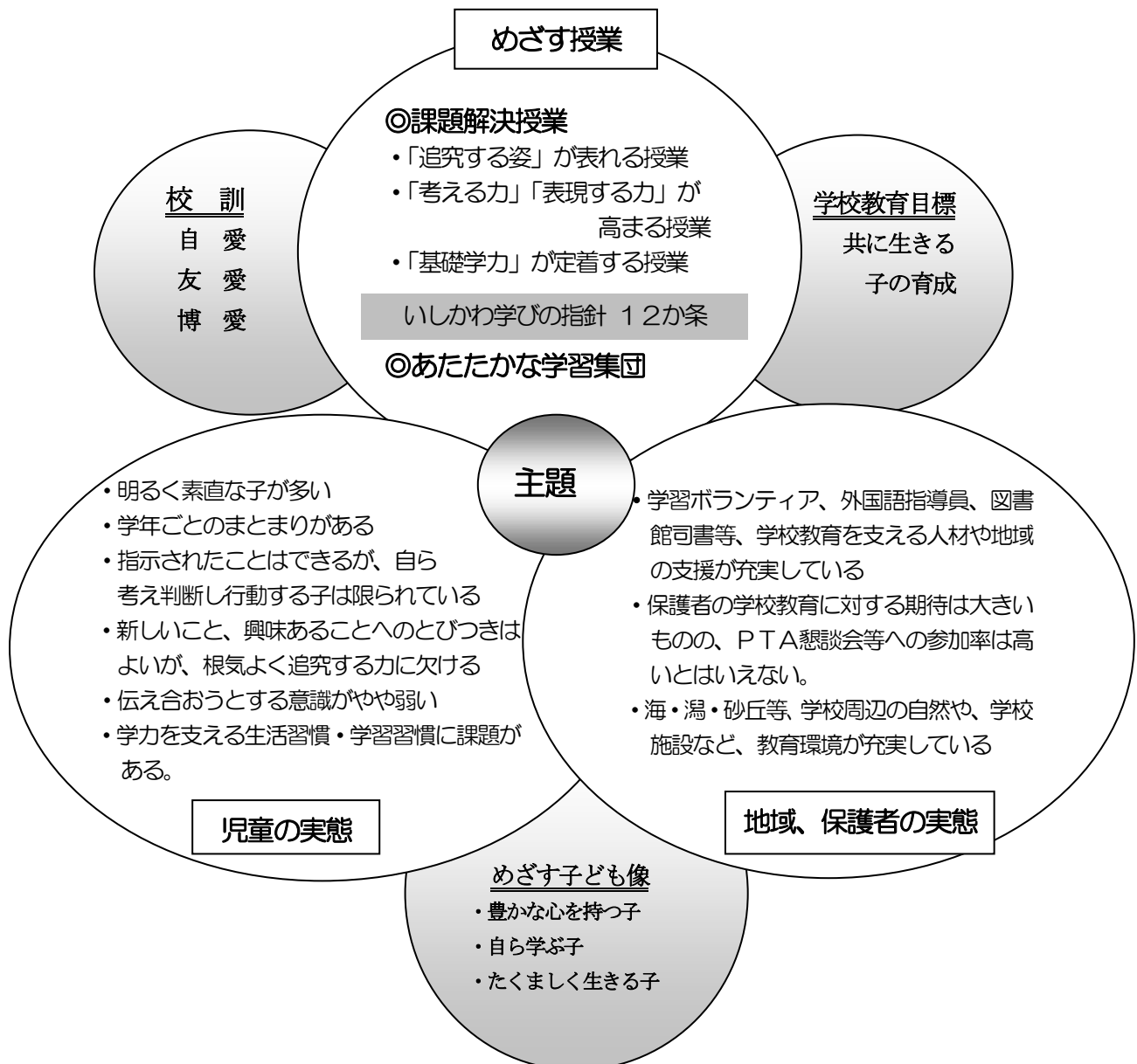
平成28年度 校内研究

1. 研究主題

自ら考え、追究する子をめざして

～主体的・協働的な学習に向けた効果的な指導の工夫を通して～

2. 研究主題・副題設定の理由



本校では、平成17年度から、研究主題を「自ら考え、追究する子をめざして」とし、追究する姿がみえる授業づくりを目指し、実践を積み重ねてきた。

本校が考える「自ら考え、追究する子」とは、課題を見出し、個や集団の中で、既習事項やこれまでの経験を総動員して課題の解決や達成に向けて考え、それを表現し合うことで学びを深めるとともに、さらに新たな課題を生み出し追究し続ける姿である。このような学びへの姿勢・能力を、これからの時代を生きる子どもたちに、ぜひとも獲得させたい。

昨年度までの4年間では、「活用力」、すなわち「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を育成するための指導改善の方向性として示された「いしかわ学びの指針12か条」の推進校・連携校となり、この指針の具現化を図る中で、方向が目指す児童の姿にせまろうと研究を進めてきた。

特に昨年度は、根拠や筋道を明確にして自分の考えを表現させ、思考を深めるための手立てを実践してきたことで、児童自らがそれを明らかにし、納得感のある表現をしようとする意欲・力が向上してきたことが成果であった。

本年度は、この成果を土台とし、児童一人ひとりが「自ら」そして「共に」学び、「身体で活動してアクティブ」にしていくのではなく「頭の中がより活性化してアクティブ」になるために、授業者が何のためにどんな活動の場を設定するか、どんな働きかけをしていく必要があるのかについて実践を積み重ね、主題にせまっていきたいと考え、新たな副題を設定した。

なお、本年度は道徳の時間、国語科、算数科を中心に研究を進めていく。本年度は平成28年度いしかわ道徳教育推進校の指定を受けている。昨年度までの国語科・算数科の教科部会で培ってきた成果を生かして、道徳の時間でも「自ら考え、追究する子」を目指していきたいと考えている。

3. 研究の仮説

主体的・協働的な学習に向けて、適切な教材（学習素材）・学習課題・学習活動（言語活動）を設定し、ねらいに迫る意図的な発問や問い返しを行うことで、児童一人ひとりが「自ら」そして「共に」課題の解決や達成に向かって意欲的に取組み、「自ら考え、追究する力」を高めることができるであろう。

4. 研究の重点

主体的・協働的な問題の発見、解決の場面を持たせることで、
自ら考え、追究する力を高める授業づくりを実践する。

5. 授業づくりの重点と具体的取組

(1) 主体的な学びのある授業を行うために

- ① 追究意欲が高まる学習素材・言語活動・学習課題の設定
 - ・単元のねらいとする力をつけるための適切な言語活動・学習活動の設定
 - ・本時のねらいに沿った子どもたちに表出させたい「根拠」「理由」「結論（考え）」の把握
 - ・既習を生かして見通しが持てる学習課題の設定、補助発問
 - ・新たな視点をもたせるなど、多面的・多角的に考えさせる発問・問い返し

- ② 課題の解決に一人ひとりが関わり、思考したことについて表現する機会（書く・話す・聞く）の充実
- ・相手意識を持って伝え合うスキルの系統的な指導
 - ・教科に応じた表現方法の指導，ワークシートの工夫

③ 自らの変容を実感できる場の設定

- ・1時間の中での自分の変容と次時への課題を自分の言葉でまとめる時間の確保
- ・自分の学びを残し，ふり返ることのできるノート指導
- ・良さや次への意欲が持てる朱書きの工夫
- ・良さを広める機会の設定
- ・習得した学びをふり返り，活用する場の設定



(2) 協働的な学び（子どもたち同士が教え合い学び合う）のある授業を行うために

① 意図的・計画的に行う授業形態や活動形態の工夫

- ・既習や課題把握のスタート，授業や単元のゴールなどの土台を揃える工夫。
- ・ねらいに向けた明確な意図のある教師の働きかけ



② 友達が表現したことを受けとめ，補い合おうとする学習集団作り

- ・学びのステップアップ1 2チェック表を活用した学習規律の確立
- ・反応やあいづち，付け加え，切り返しなど話し合いの話型（表現力ステップアップ表）の活用
- ・対話の仕方の指導

6. 学力・学習を支える基盤，指導改善を進める体制をつくるための具体的取組

(1) 基礎的な学力・表現力の向上・定着を図る

*学習の基盤を作る取り組みの共通実践

① 朝学習を活用し，基礎学力の定着・習熟，課題の克服を図る

- ・8:10～8:20の10分間，担任の指導のもと，取り組む（職員朝礼がある月曜を除く）。
- ・学習課題に取り組んだ後は，速やかに解答・解説をし，フィードバックを行う。

曜日	内容	
月	読書	・読書（読書カードの記入も含む）
火	AKBタイム	活用力向上のための課題 ・根拠や筋道を明確にして表現させる表現力の向上のための課題 ・本校児童の課題の克服のための課題 （学力向上プログラム，各学力調査過去問題等を活用）
水・金	国語・算数	基礎学力向上のための課題（学年・学級裁量） ・繰り返し学習によって，習熟・定着を図ることが必要な課題 ・家庭学習の成果を検証する小テストなどの実施 （国語）漢字，ローマ字，ことわざ，四字熟語，作文，視写 など （算数）四則計算，比例数直線図にまとめる，作図 など
木	読書	・読書（1～4年） ・小学生新聞等を活用した新聞読書・視写（5・6年）

② 家庭との連携を深め、よりよい家庭学習習慣の定着を図る

- ・10分×学年（低学年は20分）の学習時間の定着を目指し、学習時間に見合う課題を工夫
- ・家庭学習・計算・漢字ステップアップ週間の設定
漢字（各学期1回）、計算（1・2学期 各1回）、それぞれ1週間ずつ全校一斉に設定
新出漢字の書き取り、基礎的な四則計算の繰り返し学習
1週間の家庭学習取組時間を記録して可視化
- ・学習日より「CATCHBALL」・「家庭学習のてびき」など家庭学習の参考になる資料の発行
- ・家庭学習の主体性を高め、学力の向上を図るための「自学ノート」指導の充実

③ 読書活動の充実を図る

- ・朝読書（毎週月曜・木曜、高学年は週1回の新聞読書）、読書週間の設定
- ・読書の履歴が分かる「読書カード」の活用
- ・地域ボランティアによる「お話し会」、英語による読み聞かせ「イングリッシュ・タイム」（月1回）
- ・いしかわ学校読書の日（毎月23日）、親子ふれあいデー（毎月第3火曜～木曜）の活用
（読書を家庭学習の課題とする）

④ 各種学力調査により、児童の学力の定着状況をとらえ、弱点克服のための取組を実施する

- ・全校挙げての組織的な弱点克服・指導改善の取組の推進
学力調査実施後、速やかな採点・分析・取組の実施
教科部会を組織し、採点の実施、指導改善・弱点克服の取組の検討と実行
- ・学力向上プログラム、各学力調査の過去問題の活用（朝学習・RKBタイム・単元末テスト）
- ・朝学習の計画的なプリント学習（AKBタイム）
弱点の補強、特に重要な学習内容の繰り返し学習、学力向上プログラム・学力調査問題の活用
- ・到達目標に達していない児童への個別指導や補充授業（放課後・長期休業中 等）
- ・校内学習到達度調査の実施により、活用力・表現力の伸長と指導改善を図る

⑤ 学習規律の確立を図る

- ・学びのステップアップ12の指導
「学習の構え」「書く」「話す」「聞く」について全校共通指導
あたりまえにできること（習慣化すること）を目指す
- ・表現カステップアップ表の「話す」「聞く」力の段階表の日常的活用
クラスで目指す目標の設定、ふりかえりの場の設定

*表現力（書く・話す・聞く力）をつける取組の共通実践

① 表現カステップ表（考え・根拠・理由の表現の仕方）の活用

根拠・理由・考えの示し方の具体的な姿を話型・三角ロジック図で児童に分かりやすく示す

② ナディ・ノート10のポイントにより、ノート指導の充実を図る

教室等でのナディ・ノートの掲示

(2) 教師の授業力をつけるための学び合う環境づくり

*授業研究を推進し、授業実践の成果と課題が共有できる環境を整える

- ・研究授業には外部講師を招聘。視点を明確にして協議を行う（授業案の検討・授業参観カードの作成）
- ・授業の通信を発行するなど、授業整理会後の成果と課題を共有し、明確になったことを共通実践にいかす
- ・日常的な授業研究を進められるよう、授業参観日を各教職員が毎週1回設定
- ・特に若手教職員のニーズに応じた校内職員研修を計画的に実施
（得意分野のポイントを伝え合う、お互いの取組を紹介し合う など）

(3) よりよい実践を積み重ねていくための検証方法の具体化

*実践や取り組みの効果を多面的・多角的に検証し、よりよい実践にいかす

- ・児童の変容・取組の成果についての検証の方法・観点を明確化し、学力調査や児童の姿、アンケートなどを活用した検証を行い、その結果をもとに、さまざまな方策や研究推進体制の改善を図る。

①学力調査・単元テスト

国・県・町学力調査（4月／4・5・6年）、評価問題（12月／5年）、
校内学習到達度調査（1月／全学年）

- ・課題を把握し、その課題の改善が図られているかを、正答率・解答状況で検証
- ・校内到達度調査は、学力調査等で課題になった点が改善されているか、根拠や筋道を明確に表現する力が身についているかどうかを検証するため、問題を自作するなど工夫して実施

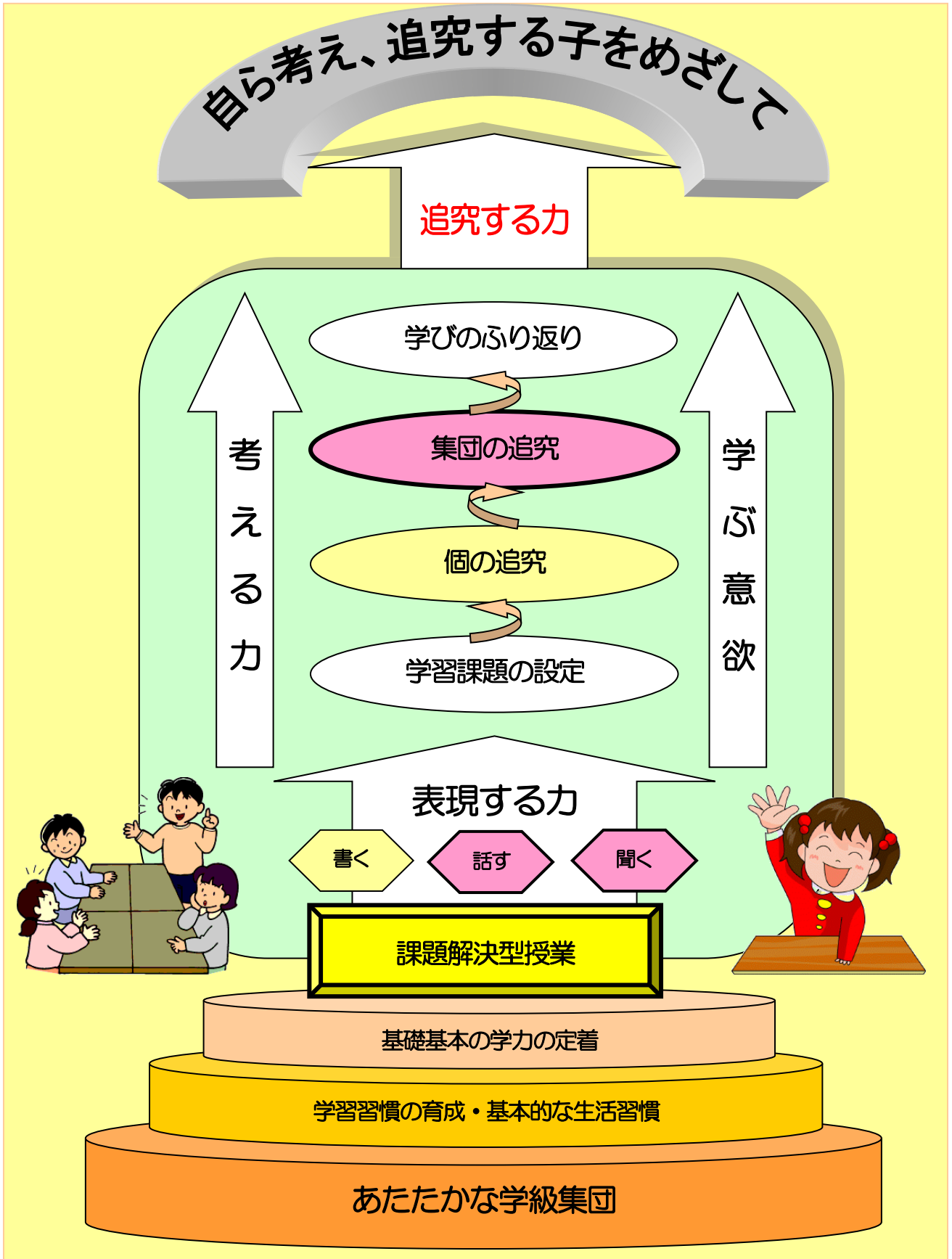
②家庭学習・漢字・計算ステップアップ週間

- ・家庭学習 … 学年目標時間の達成日数の変化で検証
- ・計 算 … 同一問題に取り組ませ、取組の前後での正答率・タイムの変化で検証
- ・漢 字 … 問題を初見で「まとめのテスト」を実施し、正答率で検証

③学校評価、児童・教職員アンケート

- ・研究の重点にかかわる点について項目を設定し、児童・教職員評価の数値の変化で検証

7. 研究構想図



課題解決型授業

児童

教師



- あれ？不思議だな
- なぜだろう？
- 考えてみたい、やってみたい
- どのようにしたらいいかな
- 何かきまりがあるのでは？
- ○○ができるように
 取り組んでいこう
- 考えてみたい。

課題の設定



個の追究

- 自分の力で考えてみよう
- できないところを
 できるようにしたい。
- 前に学んだことを使ったら
 解決できないかな
- 理由をはっきりさせよう
- 他のやり方でやってみよう

自分の考えをわかりやすく伝えよう
これまで学んだ学習内容や
伝え方を使って表現しよう

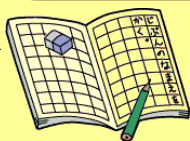
- みんなの考えを聞きたい
- 自分の考えと同じだ
- ○○という点では、少しち
 がうところがあるぞ
- なんかことを言いたかった
 のか質問してみたい
- なるほど、そんな考えもで
 きるのか

集団の追究



- 課題に対する答えがはっき
 りしたぞ。
- はじめの自分よりも考えが
 深まった。
- ○○さんの考えの方は、と
 てもわかりやすかった
- ○○を使って考えたらできた
- 学習用語を使い、根拠をは
 っきりさせてまとめよう
- 次はこれを考えてみたい

学びのふりかえり



- ☆追究意欲が高まる
 単元構成や課題の工夫
- 主体的に課題をもてる工夫
- 根拠や筋道を明確に表現できる課題づくり
- 単元のゴールを見通した課題づくりと
 効果的な言語活動の設定

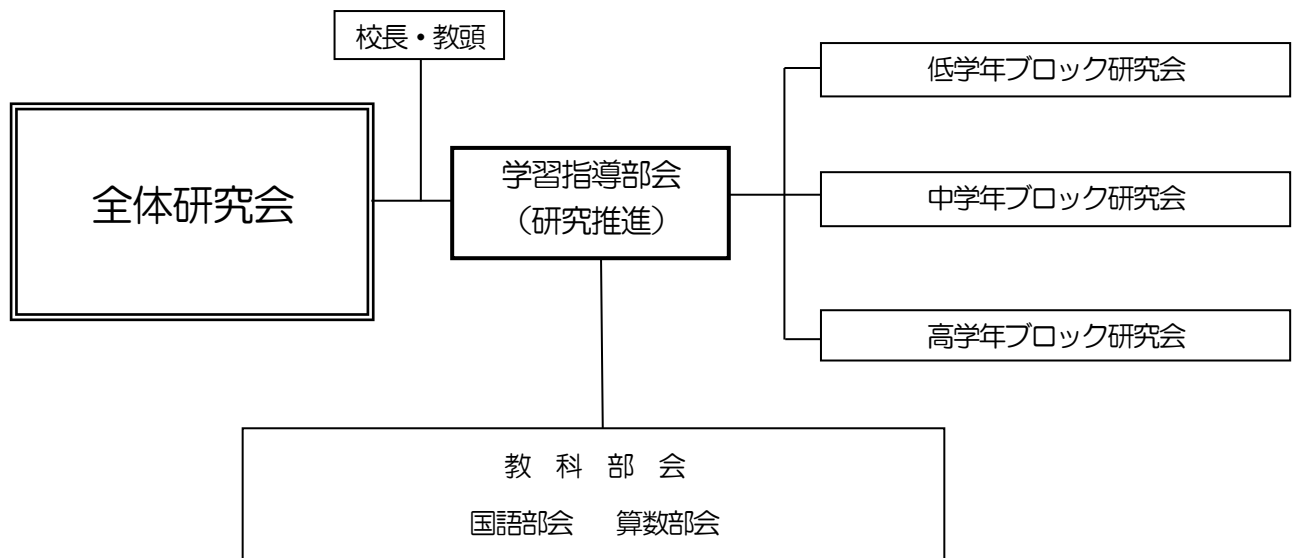
- ☆「書くこと」の充実を図る
- 基本的な書くためのアイテムを獲得させる
 (ノートの書き方の指導・ワークシートの工夫
 教科に応じた表現方法の指導 など)
- 既習事項をふりかえり、
 考えをもつことにつながる教室掲示

既習事項・アイテム
を活用させる

- ☆対話を通して協働的に学び、
 話し合いの充実を図る
- 考えを伝えるためのアイテム
 (基本的な話し方)を獲得させる
- 思考を深め、ねらいにせまるための発問
- 授業の流れが分かり、
 気づきが生まれるような板書の工夫
- 考えを高めるための適切な学習形態を、
 目的をもって設定する

- ☆変容を実感するための
 ふり返りの場をもつ
- 本時をふりかえり、自らの変容を
 自らの言葉でまとめるための時間の確保
- どのよさがあるのかを明らかにし、
 次の意欲になるような朱書きの工夫
- 児童にみられたよさを広める機会の設定
 (学びのあしあとを記したノート交流など)

8. 研究の組織と活動内容



- ・低・中・高学年の「ブロック研究会」、国語・算数の「教科部会」を組織する。
- ・ブロック研究会は担任する学級が所属するブロック，教科部会は授業研究を行う教科に所属する。同一ブロックで，国語・算数各部会の所属職員が同数となるように調整を行う。
- ・全員が，校内研究授業を1回ずつ行う。
- ・担任・少人数担当は国語または算数で，級外は担当教科で，研究授業を行う。
- ・各ブロック各1回全体研究授業を行い，校内研究の視点・重点の具体化について，共通理解の場とする。
- ・各教科部会（国語・算数）において，年間2回の教科部会研究授業を行い，教科ごとの重点課題について，協議・研究を行う。
- ・研究授業では，事前研究会・整理会をもつ。また，外部講師を招聘するようし，指導・助言をいただくことで研究の充実を図る。
- ・全体研究授業には，全職員が参加する。教科部会研究授業には，当該教科部会に所属する職員が参加する。ブロック研究授業には，当該ブロック研究会に所属する職員が参加する。なお，他教科部会・他ブロックに所属の職員も，各研究授業を積極的に参観するように努める。

9. 年間活動計画案

会 月	学習指導部関係	研究授業等関係		
		低学年	中学年	高学年
4月	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織と役割分担 研究主題・研究の重点の共通理解 年間研究計画案作成 ・ 指導案形式(道徳)の共通理解 各ブロックの重点の設定 国・県・町 学力調査の実施(4・5・6年) 			
5月	<ul style="list-style-type: none"> 国・県学力調査の採点・分析, 町学力調査の分析 課題の解決に向けた取り組みの検討 道徳提案授業・全体研究会(道徳学習会) 教科部会(重点の設定) 指導案形式(教科)の共通理解 家庭学習・計算ステップアップ週間① 	ブ/2年(道徳)	全/3年(道徳)	
6月	<ul style="list-style-type: none"> 道徳全体研究授業 提案授業の課題を受けて・公開研究会に向けて A訪問公開授業指導案検討 		ブ/4年(道徳)	全/6年(道徳)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間② 授業アンケート(学校評価) 教科部会(1学期の振り返り・取組内容の報告) 	指導主事学校訪問A(全員授業公開) 7/4		
8月	<ul style="list-style-type: none"> 学力調査詳細分析 校内学習到達度調査 問題作成 公開研究会指導案検討会 全体研究会(道徳学習会・2学期に向けて・学力調査分析) 			
9月	<ul style="list-style-type: none"> 道徳全体研究授業(日訪問) 	全/1年(道徳)	ブ/コスモス特支	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・計算ステップアップ週間③ 教科部会(取組内容の確認) 公開研究会指導案完成 	ブ/級外(体育)	ブ/3年(国語)	ブ/5年(国語) ブ/算数少人数
11月		公開研究会(いしかわ道徳教育推進事業) 11/9		
12月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間④ 評価問題(5年)実施, 採点・分析 教科部会研究授業 2学期の振り返り・各ブロック研究会からの報告 授業アンケート(学校評価) 	ブ/級外(音楽)		教/4年(算数)
1月	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習到達度調査(1-4・6年)実施, 採点・分析 町学力調査の実施(3年) 教科部会研究授業 ・ 研究の成果とまとめ 		教/4年(国語)	
2月	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習・漢字ステップアップ週間⑤ 全体研究会(今年度の振り返り・次年度にむけて) 評価問題(5年)実施, 採点 研究紀要作成 			
3月	<ul style="list-style-type: none"> 研究紀要発行 			

道徳の授業をもとに、今年度の重点について確認する。

前期は研究授業を行わず、部会での重点の検討・設定を通して、研究の方向性を明確にする。

提案授業の課題への取組を通して、研究の重点について確認し、今後の研究の視点の明確化を図る。

1学期の振り返りが生かされているかを確認し、今後の研究の充実を図る。

重点への具体的な取組状況の確認を通して、今年度の成果を共有し、まとめに生かす。

重点への具体的な取組状況の確認を通して、今年度の成果を共有し、まとめに生かす。